

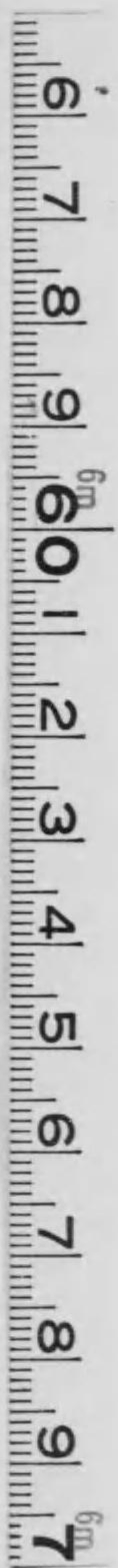
263.3  
140



兼 款  
用 爾

手工科教學細目

(第二學年用)



始





263<sub>3</sub>-140

### 凡例

#### 編纂ノ趣旨

- 一、本細目ハ尋常小學校手工科ノ教授ニ充ツルタメニ編纂シタルモノニシテ之レヲ八冊ニ分チ第一學年ヨリ第四學年マデハ各學年用一冊宛第五、第六ノ兩學年ハ男女ニ依リテ之レヲ區別シ各二冊宛トナシタリ
- 二、本細目ハ各學年共一學年間ノ教授週數ヲ四十週トシ之レヲ第一、第二、ノ兩學期ニ各十五週宛、第三學期ニ十週ヲ充テ每週教授時間ヲ第三學年以下ハ一時間、第四學年以上ハ二時間トシテ教材ヲ配當セリ
- 三、本細目ハ教授ノ方法ヲ模作法、臨圖工作法、創作法ノ三種ニ分チ模作法ニ於テハ基礎的模式的教材ヲ排列シテ基礎的工作法ヲ授ケ其ノ他ノ方法ニ於テハ練習的應用的教材ヲ按排シテ自動的、創作的能力ヲ養フト共ニ各兒童ヲシテ其ノ能力ニ應ジ十分活動ヲ爲サシムルニ努メタリ

#### 教材ノ選擇

- 一、從來ノ細目ニ比シテ教材選擇上種目ノ範圍ヲ減縮シ其ノ選定シタル種目ニ對シテハ練習的多作主義ニヨリ十分熟練ヲ得シメ活動ヲ盛ナラシムルニ努メタリ
- 二、創作的教材ヲ成ルベク多ク加ヘ以テ意匠考案ヲ練リ工夫創作ノ能ヲ養フニ努メタリ

大正  
7.5.16  
内交



三、主要工具ヲ各學年ニ排列シテ其ノ使用法並ニ手入保存法ヲ授クルニ意ヲ用ヒタリ  
 四、實用的價値ヲ發揮セシメ工業ノ常識及ビ工業ノ趣味ヲ養成シ以テ勤勞的習慣ノ涵養ニ努メタリ  
 本細目使用上ノ注意

一、本細目ハ教授兼用ノ細案ナレバ教授者ハ教授前必ず試作シテ教材ノ要点ヲ會得シ以テ教授ノ實際ニ當ルベシ

二、本細目ハ各頁ノ裏面ニ結果欄ヲ設ケタレバ教授者ハ教授後該欄ニ教授ノ年月日氏名並ニ結果ヲ記入シ以テ翌年度ノ參考ニ資スベシ

三、本細目ハカード式ニ調製シタレバ各學校ニ於テ教授成績ニ鑑ミ年々加除訂正シ以テ實際的教授細目ヲ完成スベシ

四、創作的題目ニ於ケル挿圖ハ其ノ一例ニ過ギザレバ成ルベク各兒童ノ考案工夫ヲ尊重シ以テ創作的能力ヲ發揮セシムベシ

五、第五、六學年ノ男子ニ於テハ簡易ノ竹木金細工ヲ主トシテ課スルヲ吾人ノ理想トスレ共設備經費等ノ關係ヨリ僅ニ之レヲ加ヘタルニ過ギザレバ教授者ハ事情ノ許ス限リ茲ニ意ヲ用ヒテ教授ノ實際ニ當ルベシ(本頁注意事項中二三項ヲ削除ス)

大正七年二月

編者識

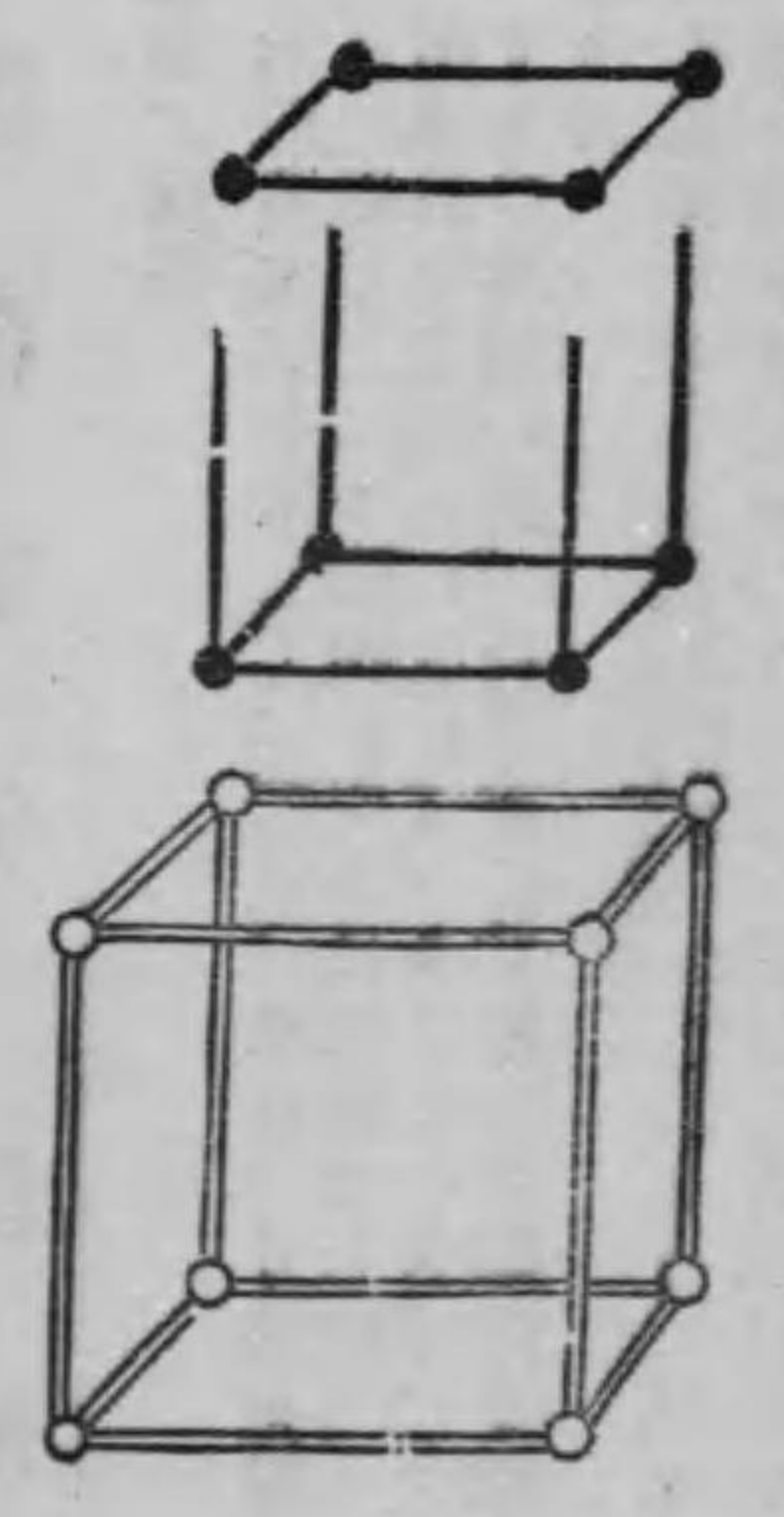
目録

第一學期 第二學期 第三學期

第一週	豆細工四角箱(立方體)	粘土細工皿	紙細工橙と葉
第二週	角形植木鉢	創作(食器類)	創作(果實類)
第三週	炭斗	文鎮形狀任意	色紙袋
第四週	手桶	竈	創作(多數の長方形を以て組立つる形體)
第五週	創作(器物)	全	全
第六週	運動器械	創作(自由選題)	全
第七週	家	紙細工方形(一切斷法)	全
第八週	創作(自由選題)	四つ目の紋形	全
第九週	粘土細工四角形墨台	吹流	全
第十週	木の葉	全	全
第十一週	葉形の皿	長方形と方形	全
第十二週	桃	交叉せる國旗	全
第十三週	莢 豌豆	全	全
第十四週	全	萬國旗	全
第十五週	全	全	全
	創作(自由選題)		



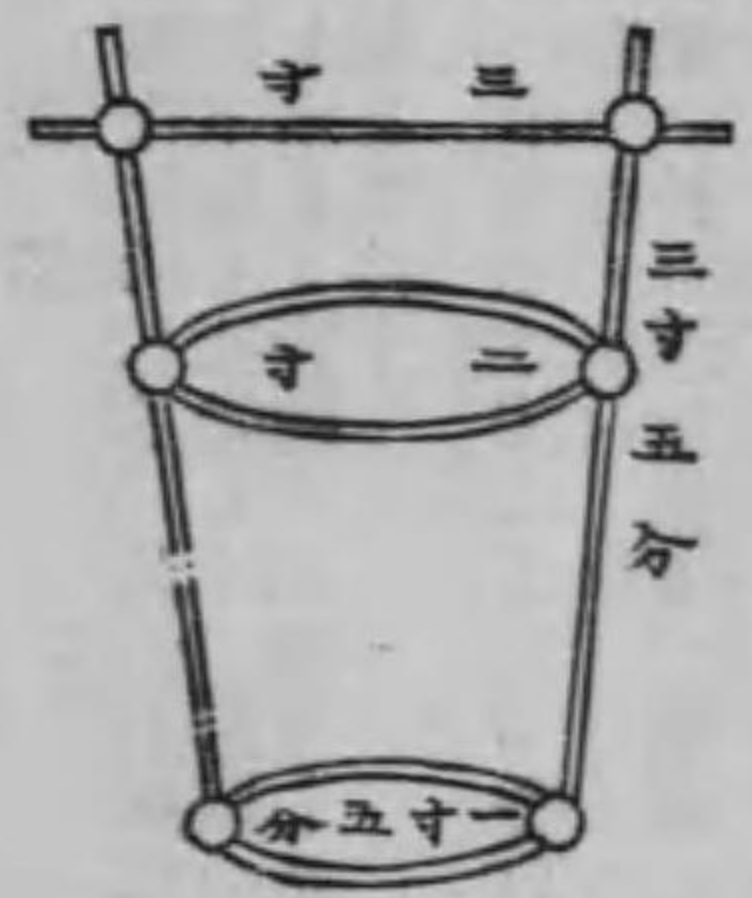
週次	種目	題目	要旨	時數	教材	授具	用品	備考
第一週	豆細工	四角箱(立方體)(模作法)	四角箱を作らしめて、立方體の觀念を明確にし、併せて立方體の組立順序を知らしむ	時	鐵、工尺位、豆十個位	喰切、尺度、筆記帳	立方體の標本(厚紙製又は板金製) 針金模型(又は豆細工示範器) 説明用工具材料	
教授事項 圖解								
<p>一、觀察</p> <p>1、立方體の大形標本を觀察せしめて、八個の頂点、相等しき十二の稜、六個の正方形よりなることを知らしむ</p> <p>2、立方體に屬する器物(火鉢、樹、影燈籠等)を舉げしめて、之れが觀念を一層明確にす</p> <p>二、作り方</p> <p>1、尺度を用ひ喰切にて、二寸の鐵を一本切らしめ、之を標準として同長のもの十二本を切り取りしむ、之を嚴密に長さを揃へて、不同あれば喰切にて切り直さしむ</p> <p>2、既習の正方形の作り方を問答しつゝ、二個の正しき方形を作り、之れを重ねて、同形ならしむ</p> <p>3、一方の方形を取り、其の角頂より柱を垂直に立てしむ</p> <p>4、次に他の方形の角頂に柱を連ね、以て立方體を組み立てしむ</p> <p>三、喰切の持ち方注意すべし</p> <p>四、立方體の構成は、豆細工の最初に於て、順序を示し、之れに倣はしむべし</p> <p>五、立方體は各方面より觀察せしめて、正しき之れを構成せしむべし</p> <p>六、なるべく筆記帳に見取圖を描すべし</p>								
上教の注意								
<p>一、成るべく針金模型(又は豆細工示範器)を示して角、稜、面の關係を明確ならしむべし</p> <p>二、第一學年第一學期第三週の正方形の部を参照すべし</p> <p>三、喰切の持ち方注意すべし</p> <p>四、立方體の構成は、豆細工の最初に於て、順序を示し、之れに倣はしむべし</p> <p>五、立方體は各方面より觀察せしめて、正しき之れを構成せしむべし</p> <p>六、なるべく筆記帳に見取圖を描すべし</p>								

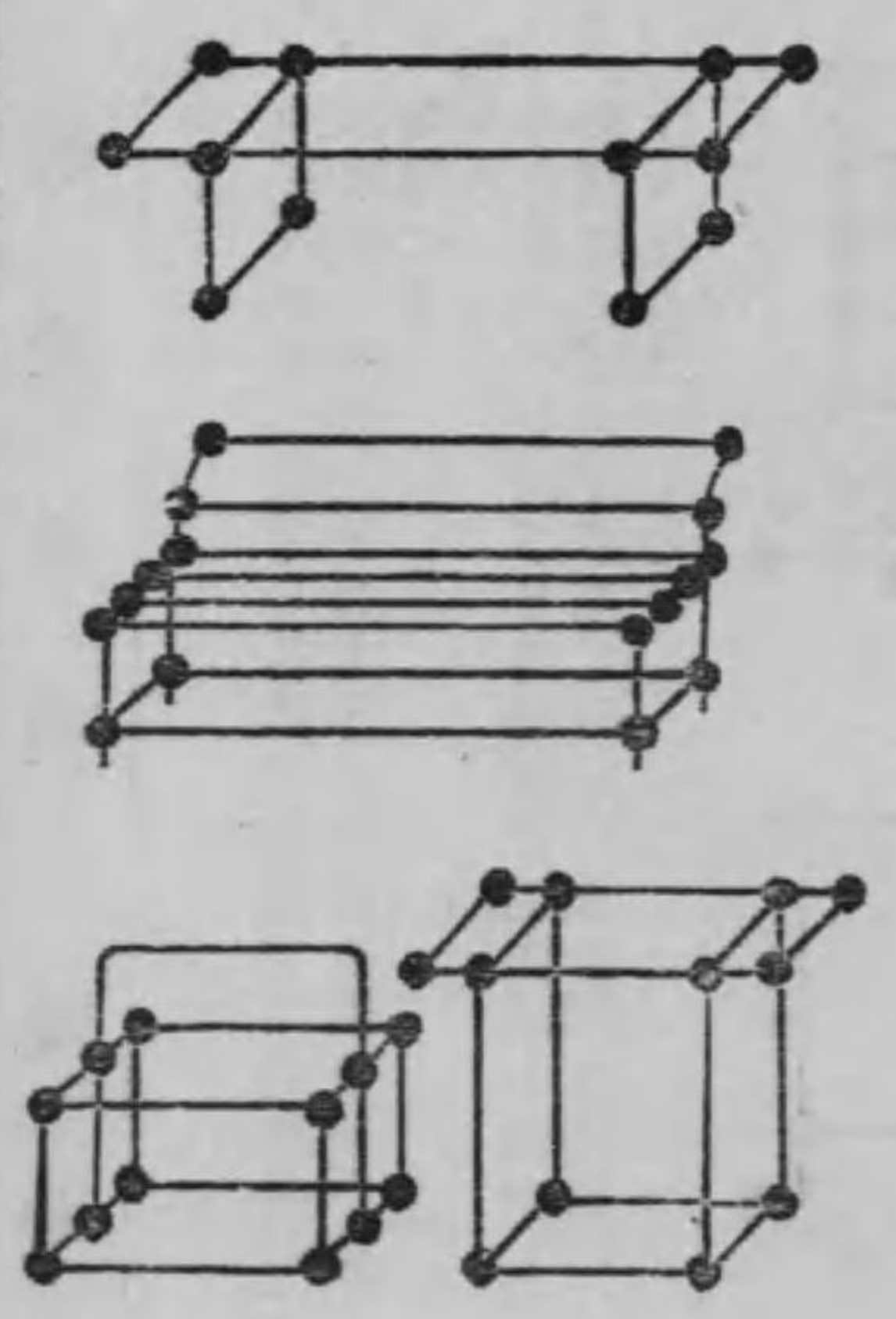




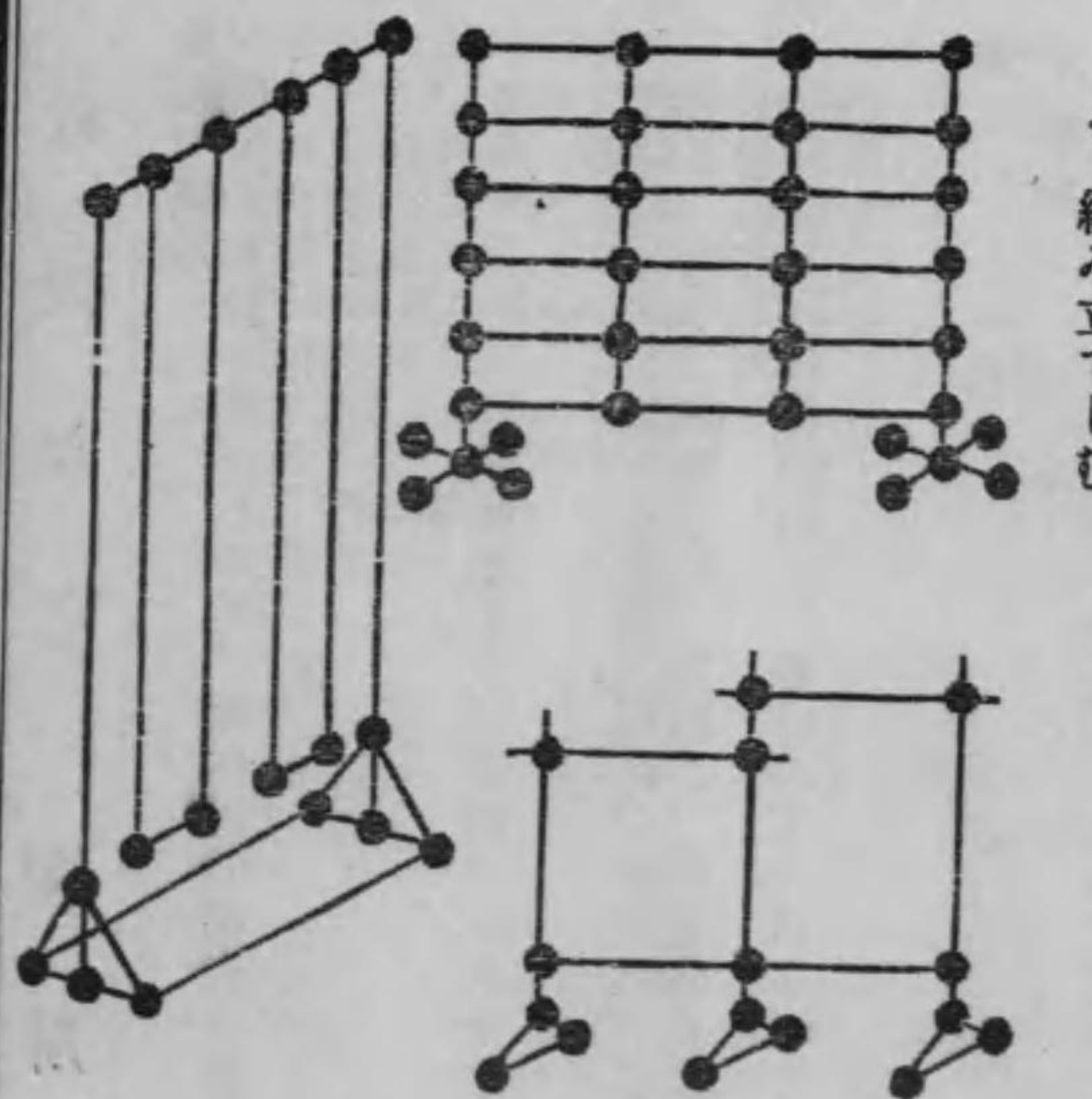


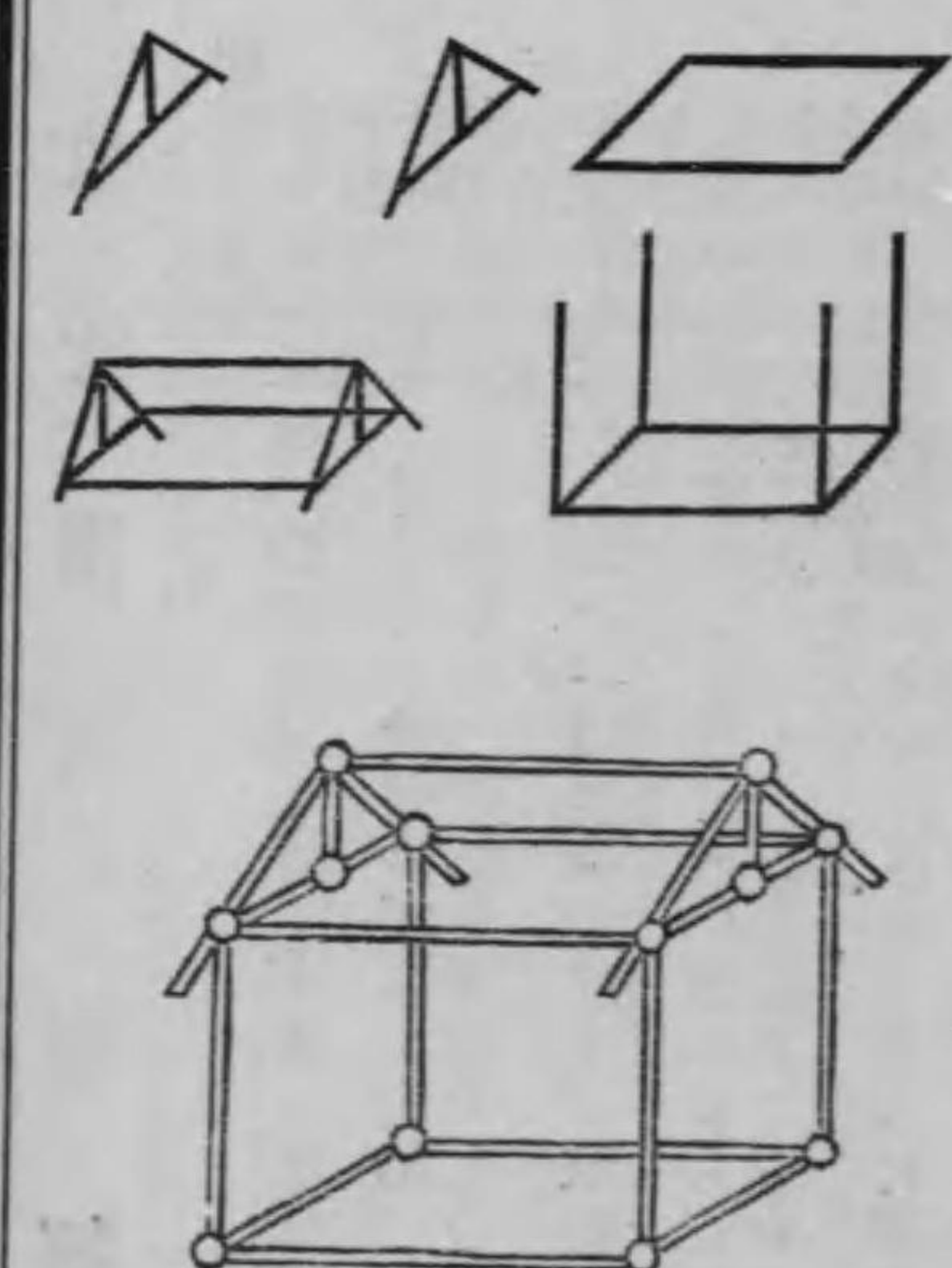


週次	種目	題目	要旨	時數	教授用品			備考
					材料	用具	教具	
第四週	豆細工	手桶 (模作法)	手桶の作り方を授け、併せて籤の曲げ方、紙の貼り方を練習せしむ	一 時	豆十個位、籤二尺位、色紙片、糊、糊下紙	喰切、缺、尺度、鉛筆	説明用工具材料、大形標本、手桶の實物	
<p>教授事項 圖解</p>  <p>一、觀察、問答                  1、手桶の實物を示して、形状、構造、用途を問答し、以て之れが觀念を明確ならしむ                  2、所要の籤及び豆の數を問答す                  二、作り方                  1、尺度及び喰切を用ひて、大畧圖に示せる寸法に籤を切り取らしむ                  2、籤の曲げ方を問答して、大小二個の圓形を作らしむ                  3、柄をつけて、手桶に組み立てしむ                  4、適當なる寸法に紙を切り、手桶の周圍に貼付せしむ                  所要の籤 (六寸(一本) 四寸五分(二本) 三寸五分(二本) 三寸(二本))</p> <p>教授注意                  一、始業前籤を濕し置くべし                  二、圓筒形に關する觀念を興ふべし                  三、圓形の部分は濕したる籤の肉部を内にし兩指先にて除々に挽め正しき圓形に作らしむべし                  四、紙の貼り方は各自の工夫に據らしむべし                  五、紙を貼る場合には周圍の籤を増して四本とする可なり</p>								

週次	種目	題目	要旨	時數	教授用品			備考
					材料	用具	教具	
第五週	豆細工	創作(器物) (創作法)	前諸課の形式を應用して、任意の器物を構成せしめ、意匠の修練、製作の練習を成さしむ	一 時	籤三尺位のもの一本、豆二十個位、色紙片、糊、糊下紙	喰切、缺、尺度、筆記帳	前學年兒童の成績品	
<p>教授事項 圖解</p>  <p>一、觀察、問答                  1、既習の題目を擧げしめて、製作上の要点を問答す                  2、イ、四角箱、植木鉢、炭斗、手桶                  ロ、立體形の組立方順序                  ハ、籤の曲げ方                  ニ、色紙の貼り方、等                  二、作り方                  1、教師の適當と認むる數個の題目、(煙草盆、机、腰掛椅子、教卓、傘棚の類)を示し、兒童各自に其一つを選定せしむ                  2、前諸課の形式を應用し、各自の工夫により任意に製作せしむ</p> <p>教授注意                  一、教師は兒童の工夫を助けて充分活動せしむべし                  二、個人指導に努むべし                  三、便宜教室内の器物を任意に製作せしむるも可なり                  四、場合によりては適當なる數個の題目の略圖を示し各自の考案を誘發せしむるも可なり                  五、製作順序を適當ならしむる様注意すべし                  六、新工夫に苦む兒童には已習題目の復習又は改作をなさしむるも可なり</p>								



考 備	品 用 授 教			時 數	要 旨	題 目	種 目	週 次
	物便教	具 用	料 材					
	前學年兒童の成績品	喰切、尺度、筆記帳	豆、三十個位、籤三尺位のもの一本	一 時	前諸課の形式を應用して、校庭の運動器械を作らしめ、意匠の修練製作の練習をなさしむ	運動器械 (創作法)	豆細工	第六週
<p>教授事項 圖解</p> 								
<p>一、問答</p> <p>2 1、校庭内の運動器械の名稱、構造、用途を問答す</p> <p>2 2、鐵棒、木、鞆、繩、遊動圓木等の畧圖を描きて形態を一層明確にす</p> <p>二、作り方</p> <p>2 1、各自其一つを選びて筆記帳に工作圖を畫かしむ</p> <p>2 2、前諸課の形式を應用し任意に籤を切り各自の工夫により組み立てしむ</p>								
<p>上教授の注意</p> <p>一、教室内に入る前に運動器械を観察せしむべし</p> <p>二、製作は自己の發表し得る程度のものを選びしむべし</p> <p>三、製作の順序を適當ならしむる様注意すべし</p> <p>四、個人指導に努むべし</p> <p>五、特に建て方を工夫せしむべし</p>								

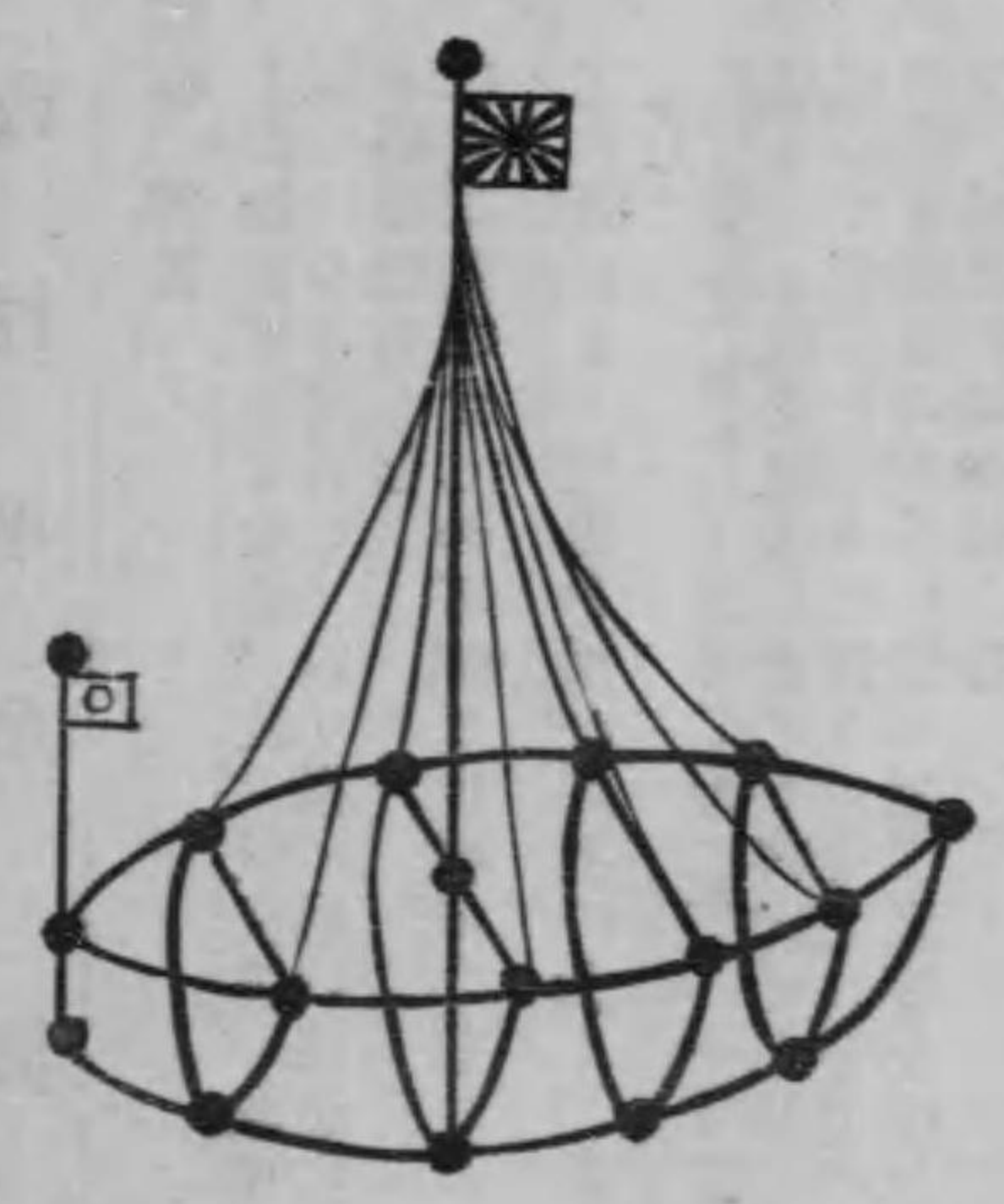
考 備	品 用 授 教			時 數	要 旨	題 目	種 目	週 次
	物便教	具 用	料 材					
	工作圖(分解圖共)大形標本	喰切、鋏、尺度、鉛筆	籤三尺位のもの一本、豆十五個位、色紙片、糊、糊下紙	一 時	圖によりて家を作らしめ、家屋の構造に關する觀念を表出せしむ	家 (臨圖工作法)	豆細工	第七週
<p>教授事項 圖解</p> 								
<p>一、觀察、問答</p> <p>1、工作圖を示して土臺、柱、屋根等、家屋の主要なる部分につき問答し、以て家の形狀構造に關する觀念を明確ならしむ</p> <p>2、標本を観察せしめて圖と比較せしむ</p> <p>二、作り方</p> <p>1、工作圖により尺度を用ひて次の如く、籤を切り取りしむ</p> <p>2、二寸五分(五本) 二寸(十二本) 一寸(二本)</p> <p>3、切りたる籤を机上に正しく整理せしむ</p> <p>4、屋根と室とを別々に作り、後之れを連げしむ</p> <p>5、色紙を適當の大きさに切り窓、瓦等を描きて室の周圍及び屋根に糊着せしむ</p>								
<p>上教授の注意</p> <p>一、臨圖工作法は主として工作圖によりて製作せしめ成るべく各自の工夫により組立てしむべし</p> <p>二、組立方の順序を亂さざる様適當に指導すべし</p> <p>三、製作後は各方面より見て形を正さしむべし</p> <p>四、製品と圖とを比較對照せしめて圖の讀解に注意せしむべし</p> <p>五、籤は稍太きもの(經四厘位)を用ひしむべし</p>								



週次	種目	題目	要旨	時數	教授用品			備考
					材料	用具	教具	
第八週	豆細工	創作(自由選題)(創作法)	前諸課の形式を應用して、任意の形體を製作せしめ以て、意匠の修練組立の練習をなさしむ	一 時	籖、三尺位のもの二本、豆、三十個位、糊糊下紙	喰切、尺度、鉄、色紙、糸等	前學年兒童の成績、參考標本又は、掛圖	

教授事項 圖解

- 一、觀察、問答
  - 1、參考標本又は、掛圖を示して、名稱、形狀、構造、用途を問答す
  - 2、教師の適當と認めたる數個の題目(汽船、二階家、車、橋の類)を示して、形態を考案せしむ
- 二、作り方
  - 1、各自作りんとする、一題目を選びて、筆記帳に畧圖を描かしむ
  - 2、前課の形式を應用し任意に籖を切り取りらしむ
  - 3、作り方順序を工夫しつゝ、之れを組立てしめ、以て、各自の思想を充分發表せしむ
  - 4、必要に應じ色紙又は糸を用ひて、之れに附加せしむ

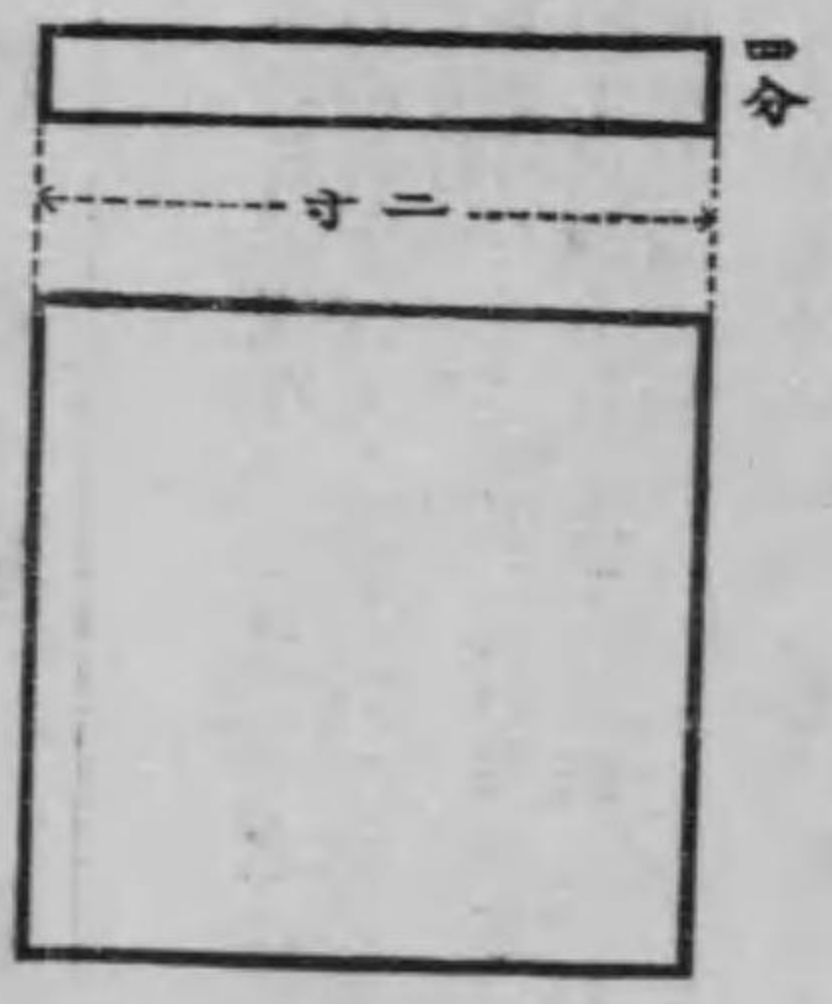


- 上教の注意
- 一、便宜題目を汽船として各自の工夫を發表せしむるも可なり
  - 二、製作は各自の能力に應じて題目を選定せしむべし
  - 三、前學年兒童の成績又は參考標本を示して考案の誘發をなすべし
  - 四、教師は各自の工夫を助けて充分活動せしむべし
  - 五、兒童の描きたる畧圖につき短評をなすべし
  - 六、本課は豆細工の最終なれば、材料を成るべく多めに與へ各自の好みに自由題目より自ら發表せしむるべし(掛圖は一例をり)を示せるものなり

週次	種目	題目	要旨	時數	教授用品			備考
					材料	用具	教具	
第九週	粘土細工	四角形墨臺 (模作法)	方板の作り方を授け、併せて正方形の觀念を明確ならしむ	一 時	粘土(稍硬く煉りたるもの)下敷紙(新聞紙又は雑誌の廢物)水	臺板、濕布、筥、尺度、ばけつ	方板の實物(木製七寸角厚一寸)、説明用具材料	

教授事項 圖解

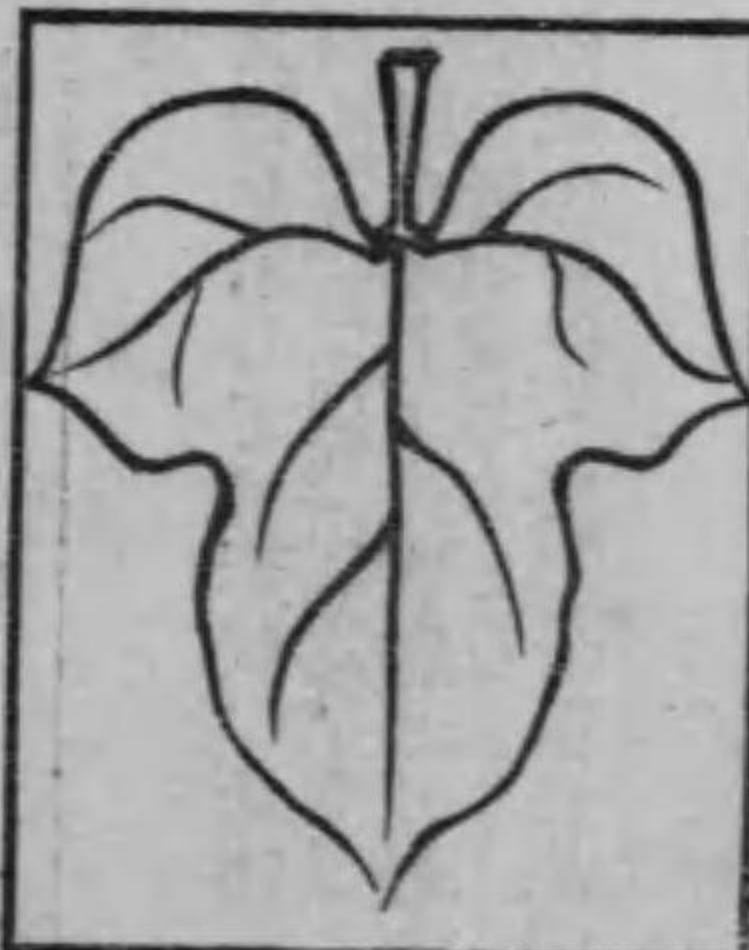
- 一、觀察、問答
  - 1、方板の實物を示して、形狀、寸法を問答し、且つ方形の性質(四邊四内角の相等しきこと)を知得せしむ
  - 2、大形工作圖を示して、實物と比較せしめ、以て方板の觀念を一層明確ならしむ
  - 3、平面形の觀念を與へて、表面に凸凹なきことを觀察せしむ
- 二、作り方
  - 1、與へたる粘土を兩掌間に轉じて、畧ぼ球形となさしむ
  - 2、臺板上に反古洋紙を敷き此の上に粘土を載せ、掌にて徐々に之れを壓して、平となさしむ
  - 3、指先にて畧ぼ方形に變じ、後尺度を用ひて所要の寸法に筥にて切り取らしむ
  - 4、角稜を正確に正し、最後に上面及周圍を平滑に磨き上げしむ



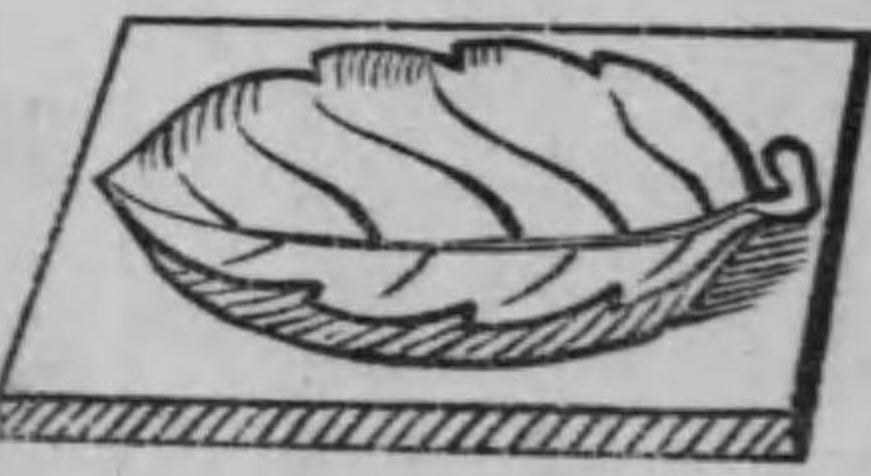
- 上教の注意
- 一、本課は基礎的教材なり、順序は教師の指示を以て之れを後丁に示すべし
  - 二、粘土は新聞紙を以て下敷紙として掲げ、粘着を防ぐべし
  - 三、墨臺の用途につき切實な説明を及ぶべし
  - 四、粘土の表面を平滑にするに、ばけつを用ひしむべし
  - 五、平らな表面をばけつに押しつけて磨き上げしむべし
  - 六、形狀寸法を正確に發見せしめ、實際の注意せしむべし
  - 七、粘土の量を多くし、板を厚くして、量板を各自の好みに作る可し



週次	種目	題目	要旨	時數	教授用品			備考
					材	具	物	
第一〇週	粘土細工	木の葉 (模作法)	木の葉を模作せしめて、之れが寫し方及び粘土の切り取り方を授く	一時	粘土(稍軟く煉りたるもの)、厚紙(巾三寸長さ四寸)、水	臺板、濕布、籠、下敷紙	各自一枚宛の木の葉(朝顔、楓、蔦の葉の類)の説明、大形標本	
<p>一、觀察</p> <p>1、各自の木の葉を観察せしめて、之れが形狀、色彩、各部の名稱等を知らしめ、以て木の葉の觀念を明確に知得せしむ</p> <p>2、大形標本を示して、粘土板の作り方、木の葉の寫し方並に粘土の切り取り方を示範し、以て之れが製作順序を明かならしむ</p> <p>二、作り方</p> <p>1、前課方板の作り方を應用して、厚さ二分許の粘土板を作らしむ</p> <p>2、木の葉の裏面を、作りたる粘土板の表面に押し付け、厚紙板を用ひて上より平に壓せしむ</p> <p>3、木の葉を貼り付けたる儘、籠にて葉の輪廓に沿ひて切り餘分の粘土を取り除かしむ</p> <p>4、次に葉を去りて、葉柄及び葉縁を修正し以て仕上げをなさしむ</p>								
<p>一、觀察、問答</p> <p>1、各自の木の葉を観察せしめて、色彩、形狀、葉脈等を問答し、以て之れが觀念を明確に知得せしむ</p> <p>2、参考標本を示して、葉形の皿の作り方順序を問答す</p> <p>二、作り方</p> <p>1、前課の形式に倣ひ、與へたる粘土の適量を取り、厚さ二分許の粘土板を作らしむ</p> <p>2、次に木の葉の裏面を粘土板に貼り、上より充分に壓せしむ</p> <p>3、籠にて木の葉の輪廓に沿ふて切り、餘分の粘土を取り除かしむ</p> <p>4、木の葉を貼り付けたる儘、周縁を起して任意の形狀に皿形を考案し、後葉を去りて縁を繕ひ、全體の仕上げをなさしむ</p> <p>5、別に相當大の粘土板を作り、皿の底面に泥液を塗り、臺上に据え付けしむ</p>								
<p>一、木の葉の選擇に注意し餘り複雑なるもの又は小形なるものは之れを避けしむ</p> <p>二、粘土板を作る際下敷紙を忘れざる様注意すべし</p> <p>三、粘土板の大きさは木の葉の大きさに相當せしめ且つ粘土板の表面を平滑せしめしむ</p> <p>四、粘土を切り取る際籠を垂直に伸用せしむべし</p> <p>五、製品は厚紙板上に載せて提出せしむ</p> <p>六、便宜他の粘土を別に粘土板を作り之れに貼り付けしむべし</p>								



週次	種目	題目	要旨	時數	教授用品			備考
					材	具	物	
第一一週	粘土細工	葉形の皿 (創作法)	木の葉を應用して、皿の形狀を考案せしめ、以て意匠の修練、製作の練習をなさしむ	一時	粘土(稍軟く煉りたるもの)水	臺板、濕布、籠、下敷紙	幅廣き木の葉(葡萄、蔦、柿)各自一葉宛、参考標本	
<p>一、觀察、問答</p> <p>1、各自の木の葉を観察せしめて、色彩、形狀、葉脈等を問答し、以て之れが觀念を明確に知得せしむ</p> <p>2、参考標本を示して、葉形の皿の作り方順序を問答す</p> <p>二、作り方</p> <p>1、前課の形式に倣ひ、與へたる粘土の適量を取り、厚さ二分許の粘土板を作らしむ</p> <p>2、次に木の葉の裏面を粘土板に貼り、上より充分に壓せしむ</p> <p>3、籠にて木の葉の輪廓に沿ふて切り、餘分の粘土を取り除かしむ</p> <p>4、木の葉を貼り付けたる儘、周縁を起して任意の形狀に皿形を考案し、後葉を去りて縁を繕ひ、全體の仕上げをなさしむ</p> <p>5、別に相當大の粘土板を作り、皿の底面に泥液を塗り、臺上に据え付けしむ</p>								
<p>一、木の葉を早く取らざる様注意せしむべし</p> <p>二、皿の縁は稍薄く仕上げしむべし</p> <p>三、泥液は各自の濕布を揮りて作らしむべし</p> <p>四、皿に對する形狀の意匠を充分工夫せしむべし</p> <p>五、臺は時間の都合上之れを省略せしむるも可なり</p>								









週次	種目	題目	要旨	時數	教授用品			考備
					材料	用具	教便物	
第一四、一五週	粘土細工	創作(自由選題)(創作法)	前諸課の形式を應用して、任意の形體を發表せしめ、以て意匠の修練、製作の練習をなさしむ	二時	粘土(稍柔軟に煉りたるもの多量)、水	臺板、濕布、篋、ばけつ	前學年兒童の成績、參考標本	
教授事項 圖解								
<p>一、問答</p> <p>1、已習の題目を挙げしめて、製作上の要点を問答す</p> <p>(3)(2)(1) 木の葉の作り方順序、果實の作り方順序、臺の作り方順序等</p> <p>2、前學年兒童の成績品又は參考標本を示して各自の工夫を誘發せしむ</p> <p>二、作り方</p> <p>1、前諸課の形式を應用して、作り得べき任意の一題目を各自に選定せしむ</p> <p>2、次に之れが形状、大きさ並に作り方順序を確定せしむ</p> <p>3、概形を作り漸次細部に及ぼさしむ</p> <p>4、成るべく臺を作りて之れに据え付けしむ</p>								
上教の注意								
<p>一、作らんとする實物を豫め用意し來らしめ之れによりて各自の任意に發表せしむるも可なり</p> <p>二、毎時一題目宛て作りしむるも亦一題目を仕上げてしむるも何れにても隨意たらしむ</p> <p>三、未成品を次の時間まで保存するに蓋付きの木箱に入れて置かむ</p> <p>四、製作品の如何なる可き粘土を軟かざる場合同じく、兒童の欲する場合同じく、法を授け、其の調は、空気の入れかき、乾燥の速さを、其の場合同じく、直に包み合せて、煉り直さしむるべし</p>								



週次	種目	題目	要旨	時數	教授用品			考備
					材料	用具	教便物	
第一週	粘土細工	皿 (模作法)	皿を作らしめて、手繪法による器物の作り方を授け、併せて形状に對する意匠を練らしむ	一時	粘土(稍柔軟に煉りたるもの)、水	臺板、濕布、篋	説明用工具材料、參考標本	
教授事項 圖解								
<p>一、觀察、問答</p> <p>1、適當なる皿の參考標本を示して、形状、構造、用途並に其の意匠を問答し、以て之れが觀念を明確ならしむ</p> <p>2、大形材料を用ひて其の要点を示範し、以て皿の作り方順序を會得せしむ</p> <p>二、作り方</p> <p>1、相當大の粘土を取り、先づ兩掌間に轉じて球形を作り、其の一面に右手の拇指を挿入して穴を穿たしむ</p> <p>2、右手の掌にて之れを支へ、挿入したる拇指と外側の食指とにて底の厚さを定め、粘土を廻しつゝ、順次に上方に押し、一樣の厚さとなし、以て皿の形状を作らしむ</p> <p>3、皿の底部を定め、口邊の凹凸を均して、全體の形状を整へしむ</p> <p>4、粘土の環を作り、之れを少しく押し一面に泥液を塗附して、皿の底部に取り付け以て糸底を作らしむ (形状に對する意匠の參考)</p>								
上教の注意								
<p>一、本果は基礎的の形式に作りしむるに對して、之れに倣はしむべし</p> <p>二、粘土は緻密なものを軟かざる場合同じく、兒童の欲する場合同じく、法を授け、其の調は、空気の入れかき、乾燥の速さを、其の場合同じく、直に包み合せて、煉り直さしむるべし</p> <p>三、粘土の量は作りしむる皿の容量の約1/3の量を積むべし</p> <p>四、皿の口邊に生ずる指の多少の厚さは、指の多少の厚さにて整へしむべし</p> <p>五、手繪法は、模式的に押しつけしむるべし</p> <p>六、便宜な底は、省略するも可なり</p> <p>七、餘力あるものは、作りて据え付けしむ</p>								



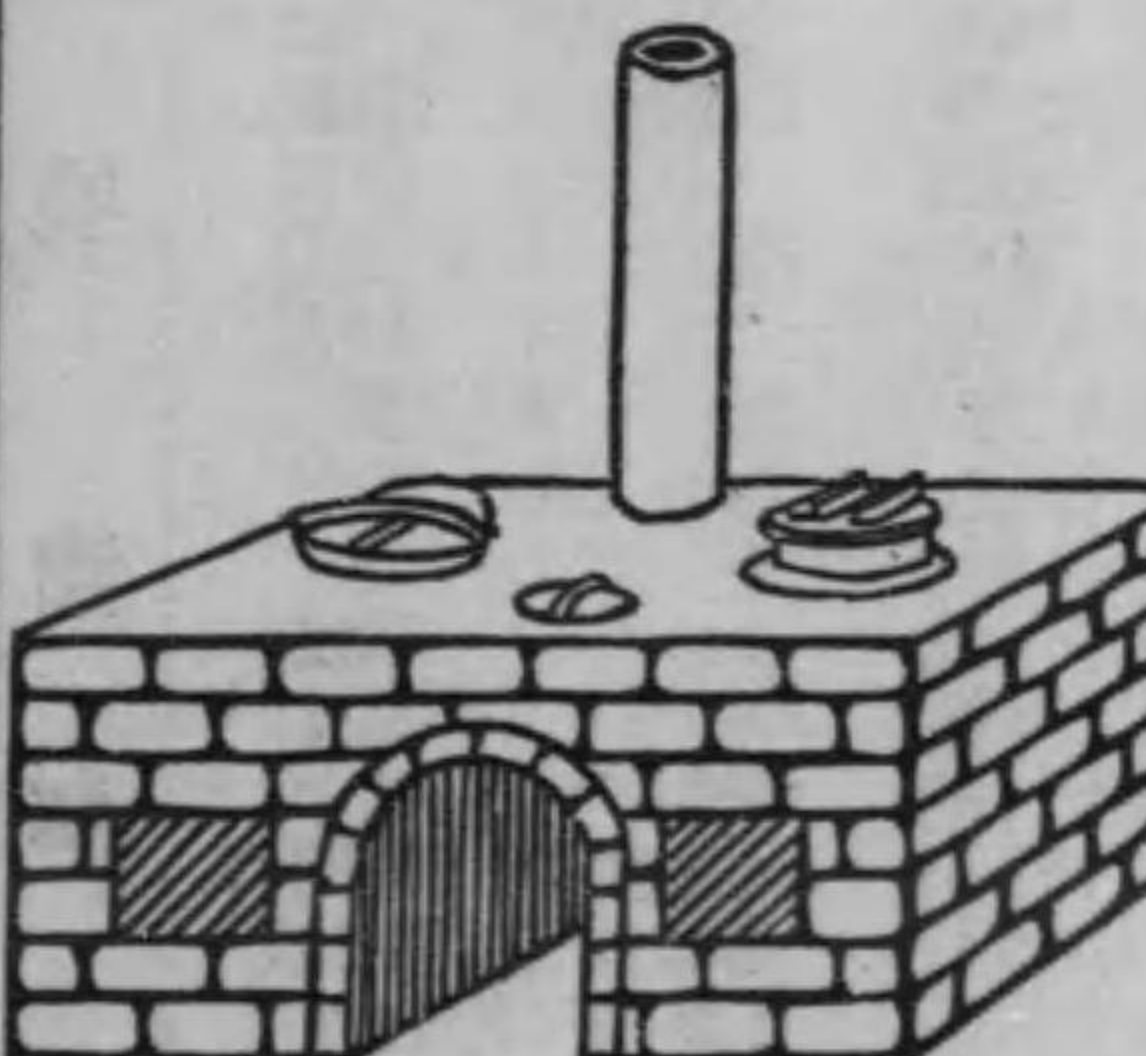






考 備	品 用 授 教			時 數	要 旨	題 目	種 目	週 次
	物便教	具 用	料 材					
	箱の類、参考標本又は掛圖	厚紙板、湿布、篋、尺度	粘土、水	二 時	各自の工夫によりて任意の竈を作らしめ、以て思想の發表製作の練習をなさしむ	竈、(創作法)	粘土細工	第四、五週

教 授 事 項 圖 解



一、觀察、問答  
 (1) 竈の構造、形状、種類、用途、並びに各部分の名稱を問答せしめ、之れを明確にせしむ。  
 (2) 竈の形状を觀察せしめ、之れを明確にせしむ。  
 (3) 竈の構造を問答せしめ、之れを明確にせしむ。  
 (4) 竈の用途を問答せしめ、之れを明確にせしむ。  
 (5) 竈の各部分の名稱を問答せしめ、之れを明確にせしむ。  
 (6) 竈の構造、形状、種類、用途、並びに各部分の名稱を問答せしめ、之れを明確にせしむ。

上教の注意

一、豫め課題に於ける竈の構造、形状、種類、用途、並びに各部分の名稱を問答せしめ、之れを明確にせしむ。  
 二、各自の意匠を充分發表せしむべし。  
 三、製作物により粘土の軟さを調整する場合は、硬さを調整するべし。  
 四、製品は厚紙板上に載せて提出せしむ。  
 五、第一時には竈の概形を作り、第二時には竈の各部を作り、第三時には竈の仕上げをするべし。

考 備	品 用 授 教			時 數	要 旨	題 目	種 目	週 次
	物便教	具 用	料 材					
	参考標本數種、前學年兒童の成績品	台板、湿布、篋、バケツ	粘土(稍多量)	一 時	前諸課の形式を應用して、任意の形態を作らしめ、意匠の修練、製作の練習をなさしむ	創作(自由選題)(創作法)	粘土細工	第六週

教 授 事 項 圖 解



一、問答  
 (1) 既習の題目を挙げしめて、製作上の要点を問答せしむ。  
 (2) 文鎮及び竈の作り方を問答せしむ。  
 (3) 前學年兒童の成績品を示して、形状構造を問答せしむ。  
 二、作り方  
 1、各自の作り方と任意の題目を、選定せしむ。  
 2、各自の工夫によりて之を製作せしむ。

上教の注意

一、粘土材料を多く與へて早く出来たるものには數種を作らしむ。  
 二、教師は兒童の工夫を助けて充分活動せしむ。  
 三、共通の缺點は仕事を中止して注意を與ふべし。  
 四、新工夫に苦しみものには已習題目の復習又は改作をなさしむるも可なり。  
 五、机上の整理、濕布の處理に注意せしむべし。





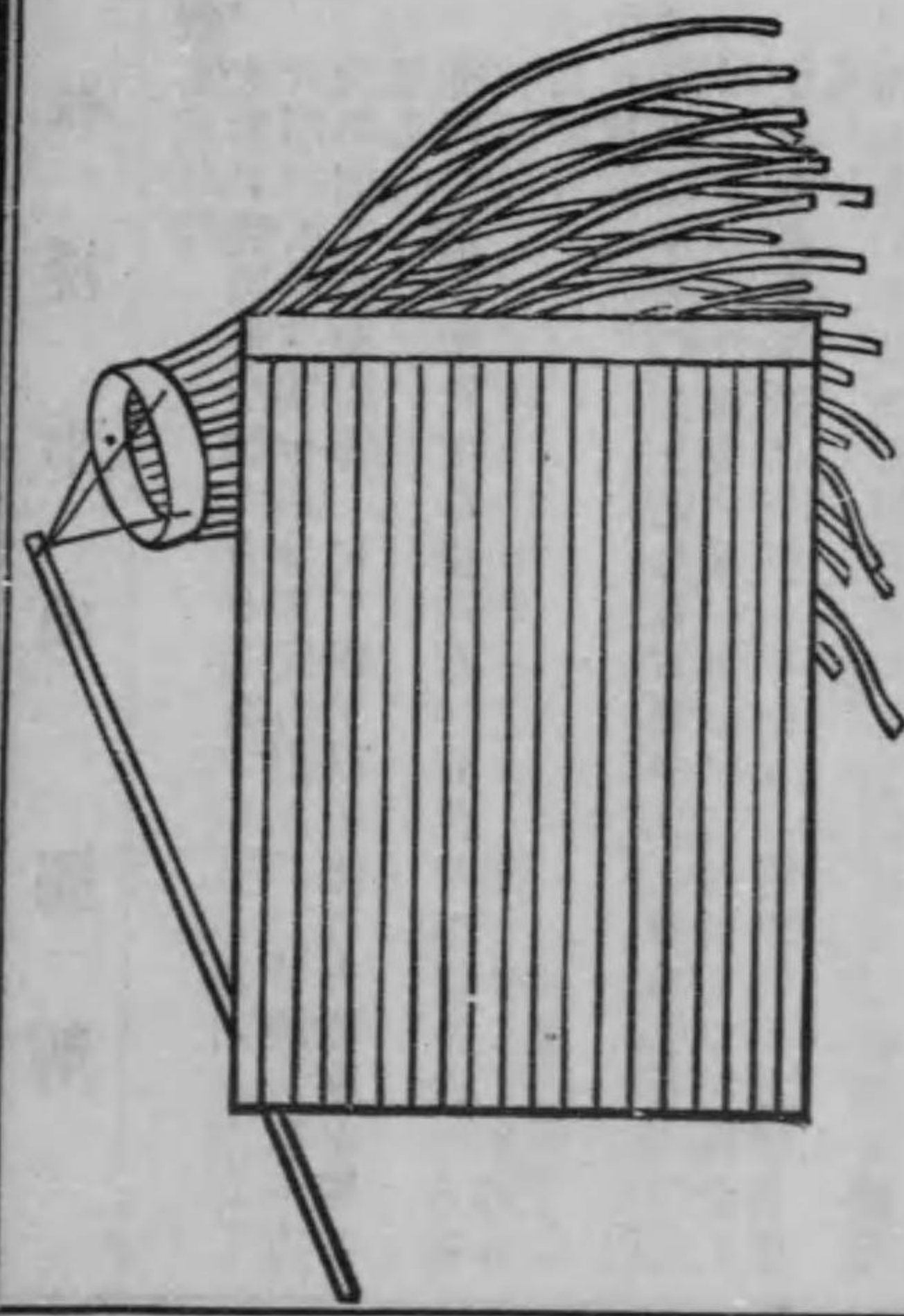


週次	種目	題目	要旨	時數	教授用品			備考
					材料	用具	教便物	
第九、一〇週	紙細工(切抜)	吹流(模作法)	吹流を作らじめて、尺度及び鉄の使用法を練習せしむ	二時	色紙(美濃判四ツ切大一枚)、糊、糊下紙	唐鉄、竹尺、鉛筆	大形標本、説明用工具材料	

教授事項 圖解

一、観察、問答(1)吹流の標本を示して形状、構造、用途を問答し、以て之が觀念を明確ならしむ(2)大形の工具材料により要点を示範し、以て吹流の作り方順序を明らかにしむ

二、作り方(1)與へたる色紙の裏面に圖の如く上下の端に尺度を用ひて、正確に二分宛の分割点を記さしむ(2)尺の左右に三分宛の点を通じ、之を並行線を描かしむ(3)上端の(4)該横線の下部を線に沿ふて鉄にて丁寧に切り放す(5)上端の裏面に糊用紙帯を貼付し、之を曲げて糸目をつけて竿(籤竹)に取り附けしむ(6)口環の三ヶ所に手鉗にて孔をあけて



一、寸法の測り方を丁寧知らしむべし

二、鉄の開閉を自在ならしめ且つ刃の摩擦を充分にして常に双全体を用ひし以て用紙を丁寧に切り放たしむべし

三、第一時に線を描きて切り初め第 二時に仕上げしむべし

四、線を描くに用ふる鉛筆は丁寧に削らしむべし

五、鉄及尺度の手入保存につき注意を興ふべし

教授事項 圖解

一、観察 大形の長方形及方形を示して、形状の異同を問答し、兩者の性質を明確に知得せしむ

二、作り方 大形の工具材料を以て、紙の折り方切り方を示範し、用紙の長邊が合する様に裏面を外にして、二つに折り重ねしむ

1、尺度を用ひて長邊を三寸に定め、其の両端に鉄の切り目を入れしむ

2、紙を開き、両切口を通じて、尺度により裏面に線を引き、かしめ、其の線上を鉄にて正確に切らしむ

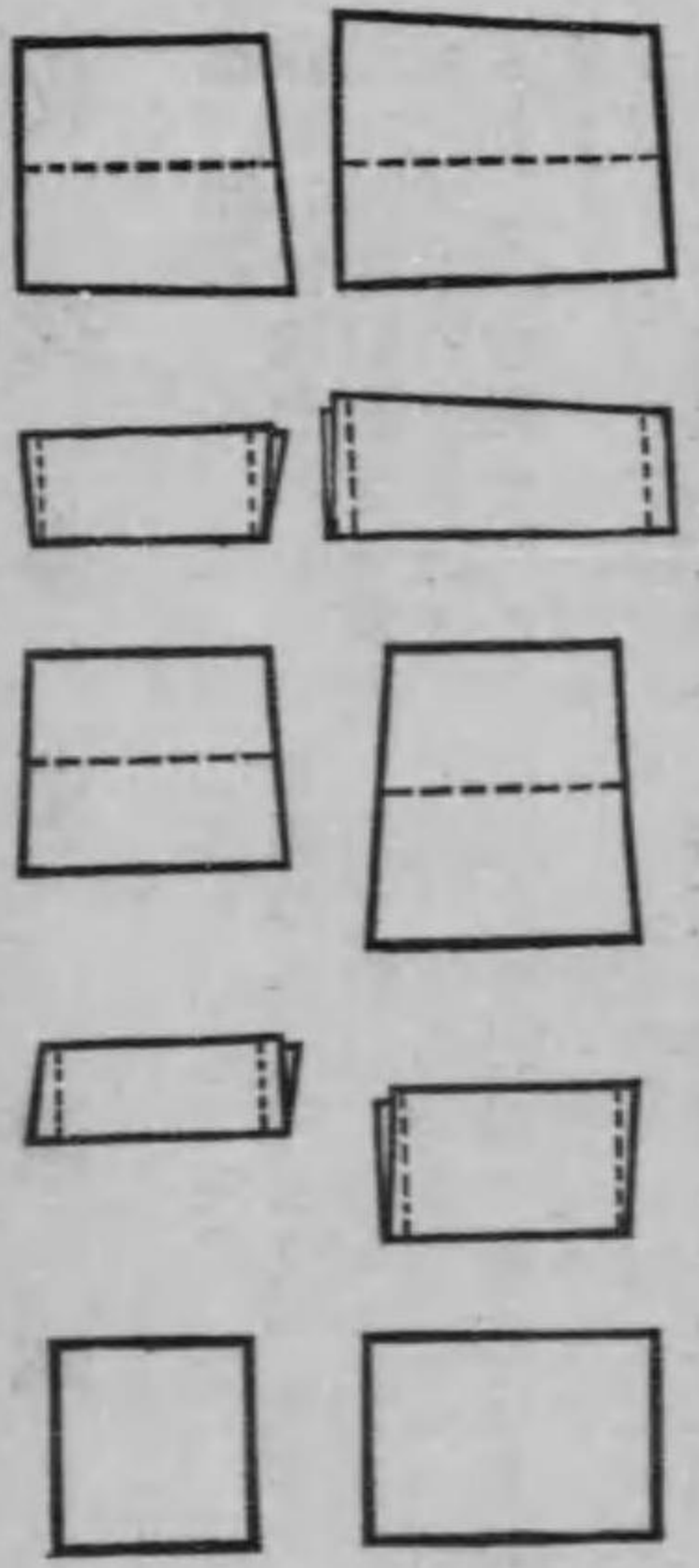
3、紙の位置を換へて、短邊の合する様嚴密に二ツ折り

4、紙の位置を換へて、短邊の合する様嚴密に二ツ折り

5、長方形の作り方を應用して、二寸の方形を切り取らしむ

6、長方形及方形を種々の方向に折り重ねて、其の性質を明にし、且つ正否を探究して、若し不正なれば寸法を縮めて切り直さしむ

7、長方形及方形を臺紙上に位置よく貼付せしむ



教授注意

一、用紙は態と重みたるものを興ふべし

二、本法は紙の歪を正し、應用廣ければ丁寧に教授すべし

三、尺度及鉄の使用法に注意すべし

四、鉛筆は先を丁寧に削りて用ひしむべし

五、餘力ある児童には色紙の層にて小形の方又は長方形を作らしめて本法に充分熟達せしむべし

週次	種目	題目	要旨	時數	教授用品			備考
					材料	用具	教便物	
第一週	紙細工(切抜)	長方形と方形(模作法)	長方形及方形の切り方を授け、併せて兩者の性質を明確ならしむ	一時	色紙(美濃判十二切大二枚宛)、臺紙、糊、糊下紙	唐鉄、尺度、鉛筆	大形の鉄及色紙、擴大標本	







考 備	品 用 授 教			時 數	要 旨	題 目	種 目	週 次
	物便教	具 用	料 材					
	大形の實物	唐鍍、尺度、鉛筆 説明用工具及材料	色紙(樺、綠) 臺紙、糊、糊下紙	一 時	橙と葉を切り抜かしめて 果實の作り方練習をなさ しむ	橙と葉(模作法)	紙細工(切抜)	第一週
	<p>一、観察、問答 1、橙の實物を観察せしめて、果實及葉の形状、色彩、粗密を問答し以て之が觀念を明確ならしむ 2、大形標本を示して、形状色彩を一層明確にし、且つ之が作り方順序を問答す</p> <p>二、作り方 1、先づ樺色の用紙をとり標本を参考しつゝ、其の裏面に鉛筆を以て、果實の形状を描かしむ 2、線に沿ふて略球形に切り抜き周囲に凹凸を作り粗面を表面はさしめて、橙の特徴を發揮せしむ 3、次に綠色紙より同様に葉の形を切抜かしめ、葉脈を描かしむ 4、臺紙の上に位置よく排べて形状を整へしむ 5、糊紙下紙を用ひて裏面の周囲に薄く糊をつけ、先づ葉を貼り次に果實を貼 6、終りに果實を貼付せしむ</p>							
	<p>上授の注意 一、教師は大形の紙を丁字に示して之に倣はしむべし 二、本課は自由切り抜きならぬ機械的は避けしむべし 三、曲線を切るに當り、紙を適当に運びて切り取らしむべし 四、形状の不整な時は、紙を入れ替へしむべし 五、早く出来上りたるものには、餘りの紙を切り取り、題の添へて貼付せしむべし</p>							

考 備	品 用 授 教			時 數	要 旨	題 目	種 目	週 次
	物便教	具 用	料 材					
	果實類の實物又は繪畫 前學年兒童の成績品	唐鍍、尺度、鉛筆	種々の色紙片(綠、樺、赤) 臺紙、糊、糊下紙	一 時	前課の形式を應用して、任意に果實類を切り抜かしめて、任意に果實類の練習をなさしむ	創作(果實類)(模作法)	紙細工(切抜)	第二週
	<p>教授事項 圖解</p>  <p>一、観察、問答 1、果實の作り方順序を問答し、製作の要点を明ならしむ 2、橙及葉の切り方貼り方順序につきて問答す 3、果實類の數種(實物又は繪畫)を示して、其の形状、色彩並に作り方順序を問答し、以て之が觀念を明確に知得せしむ</p> <p>二、作り方 1、各自の好める果實類を任意に選定せしむ 2、前課の形式を應用して、各自の工夫によりて製作せしむ 3、前學年兒童の成績品を示して、工夫を獎勵せしむ</p>							
	<p>上授の注意 一、教師は兒童の工夫を助けて充分活動せしむべし 二、稍材料を多く與へて、早く出来たるものには、更に數種を作らしむべし 三、用紙はなるべく實物の色に類似のものを用ひしむべし 四、果實の特徴を發揮する機下圖を特に注意せしむべし 五、恰好に注意し台紙に丁寧に貼付せしむべし</p>							



考 備	品 用 授 教			時 數	要 旨	題 目	種 目	週 次
	物便教	具用	料材					
	說明用工具材料 組立參考標本 前學年兒童の成績品	唐鉄、尺度、鉛筆	糊、糊下紙	一 時	袋の作り方を授け併せて之れが形状、構造、用途を明ならしむ	色紙袋(模作法)	紙細工	第三週

教 授 事 項 圖 解

一、觀察、問答 (1) 色紙袋の大形標本を示して、形状、構造用途を問答す (2) 大形の工作圖(剖面圖)を示して、標本と比較し以て製作順序を理解せしむ

二、作り方 (1) 圖示せる寸法により與へたる用紙(三分長八寸)に工作圖を描かしむ (2) 不要の部分を缺いて、正に切り落さしむ (3) 尺度の薄き方を点線に合して、正確に折り曲げ爪の甲にて、折り目を充分明瞭ならしむ (4) 糊代に薄く一様に糊をつけ上よりよく押へて、充分密着せしむ (5) 裏面に丁寧に名前を書き提出せしむ

上教の授注意

一、念、廢物利用の觀念を興ふべし

二、紙屑は生じたる色紙屑は袋の切り抜きに利用せしむべし

三、尺度を厳密に使用せしめ、工作圖を正確に描かしむべし

四、便宜の時袋の表に適當なる切むるを施さしむるを可とす

五、紙質は薄手にて丈夫なるものを用ひしむべし

六、糊り方順序に注意すべし

七、便宜用紙は機械紙を代用する可なり

考 備	品 用 授 教			時 數	要 旨	題 目	種 目	週 次
	物便教	具用	料材					
	說明用工具材料 組立參考標本 前學年兒童の成績品	唐鉄、尺度、鉛筆	糊、糊下紙	一 時 (第一時切り方 第二時貼り方)	多數の長方形を以て組み立つる形體(創作法)	紙細工(切抜)	第四、五週	

教 授 事 項 圖 解

一、觀察、問答

1、組立の參考標本又は、前學年兒童の成績品を示して名稱、形状、構造等を問答す

2、兒童の日常目撃せる種々の煉瓦積みの形體を列舉せしむ

二、作り方

1、與へたる色紙を折半して、之を切り二個の長方形を作らしむ

2、各長方形を縦横共四ツ折となし、爪の甲にて押へ、長方形の折目を明瞭につけしむ

3、二枚共縦の折目を追ふて、缺にて正しく切り放たしむ

4、次に各片の横の折目を切り放して、多數の長方形を作らしむ

5、切りたる多數の小長方形を煉瓦と見做して、塀、門、橋家、墜道、水門、竈等を臺紙上に工夫せしむ

6、順序よく丁寧に貼付せしむ

上教の授注意

一、紙は正確に切ふべし

二、折り方を正確に明瞭につけしむべし

三、鋏の使用練習に重きを置き、正しく早く切る練習せしむべし

四、必要に應じて各小長方形に缺しむるも可なり

五、煉瓦積みの並び方は適當なる教師の指導によるべし

六、第一時にて切り初めたる紙片は前課色紙袋に入れて保存せしむべし

七、便宜多數の長方形にて任意の長方形を作らしむるも可なり



考 備	品 用 授 教			時 數	要 旨	題 目	種 目	週 次
	物便教	具 用	料 材					
	説明用具材料及、切抜標本、雪景色の参考標本、又は繪畫	鉄、尺度、鉛筆	白洋紙(半紙判四つ切大一枚宛) 色紙(黒、褐色、赤、等の色紙片) 臺紙(灰色)、糊、糊下紙	一 時	雪達摩の形態を會得せしめ、切抜にて之を發表せしむ	雪達摩(模作法)	紙細工(切抜)	第六週

教授事項 圖解



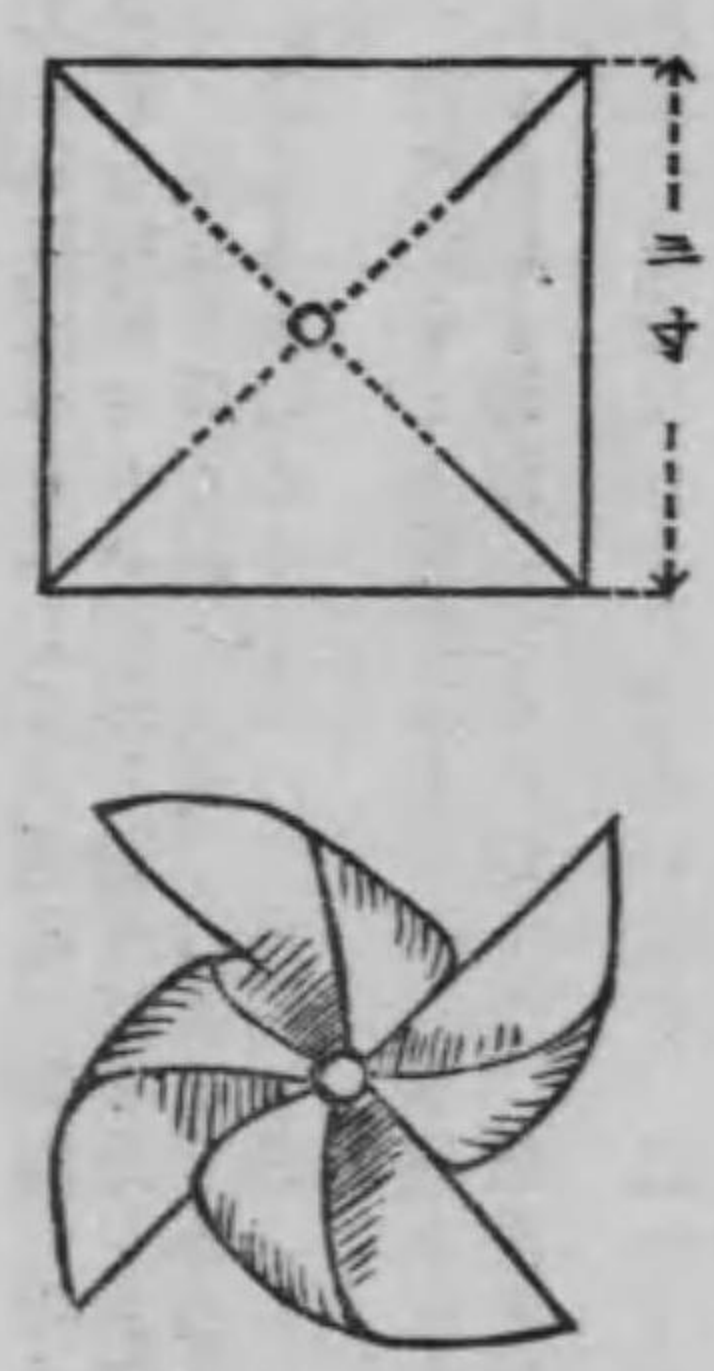
一、觀察、問答  
 1、雪達摩の切抜標本を示して、色彩、形状、各部の名稱等を問答し、之が形態を明確に知得せしむ  
 2、雪景色の参考標本又は繪畫を示して、雪降の日につき種々なる問答をなす  
 二、作り方  
 1、白洋紙の裏面に標本を参考しつつ、鉛筆を以て下圖を描き胸を切り取らしむ  
 2、相當の色紙を以て、帽子、目、鼻、口、手等を切り抜かしむ  
 3、灰色臺紙に切りとりたる各片を排べ、形態を整へしむ  
 4、先づ胸を貼り次に帽子、目、鼻、手等の順序に貼付せしむ

上教授注意

一、形態はなるべく各自の工夫によりて變化せしむべし  
 二、餘力あるものは色紙層にて背景添景を切抜きを貼付せしめて雪景色の思想を發表せしむべし  
 三、便宜色鉛筆を併用するも可なり  
 四、胸(白)、帽子(赤)、口(黒)、鼻(赤)、手(褐色)等用紙の配色を鮮明ならしむべし  
 五、中央の一個は模倣に依り他は各自の隨意に可なり  
 六、色紙の切り抜き層は色紙袋に保存せしむべし

考 備	品 用 授 教			時 數	要 旨	題 目	種 目	週 次
	物便教	具 用	料 材					
	説明用具及紙、擴大標本	鉄、尺度、鉛筆、錐(數人に一本宛)	模造紙(色紙(美濃判十二)切大一枚) 柔軟なる豌豆、糊、籤又は針金	一 時	風車の作り方を授けて、回轉の理を會得せしむ	風車(模作法)	紙細工(切抜)	第七週

教授事項 圖解



一、觀察、問答  
 1、風車の擴大標本を示して、形状、構造を知得せしむ  
 2、風車を回轉せしめて、其の理を會得せしむ  
 二、作り方  
 1、與へたる色紙を以て、一邊三寸の方形を作らしむ  
 2、尺度を用ひて、二本の對角線を描き、其の中心に錐にて小孔を穿たしむ  
 3、次に各角頂より中心に至る約半分程切り込ましめ八個の角頂を作らしむ  
 4、角頂四個を交互に摘み、先端を少しく中心に於て重なる様に貼付せしむ  
 5、錐にて重ね目の中央に小孔を穿ち、籤又は針金と柔軟なる豌豆とを以て、風車を取り付けしむ

上教授注意

一、紙質は稍厚手の丈夫なるものを選ぶべし  
 二、實際に風車を回轉せしめて其の理を會得せしむ  
 三、早く出来たる児童には更に一個を作らしむるも可なり  
 四、風車の効用につき説話すべし  
 五、籤又は針金は上部を曲ぐるを可とす  
 六、製作後運動場にて試運轉を成さしむるも可なり



考 備	品 用 授 教			時 數	要 旨	題 目	種 目	週 次
	物便教	具 用	料 材					
	説明用工具材料 擴大したる切抜標本	鋏、尺度、鉛筆	各種の色紙片(紺、青、黄、赤、緑等) 臺紙、糊、糊下紙	一 時	風景の切抜方を授け、天空、野原、及樹木の表はし方を會得せしむ	景風(野原と樹木)(模作法)	紙細工(切抜)	第八週

教授事項 圖解



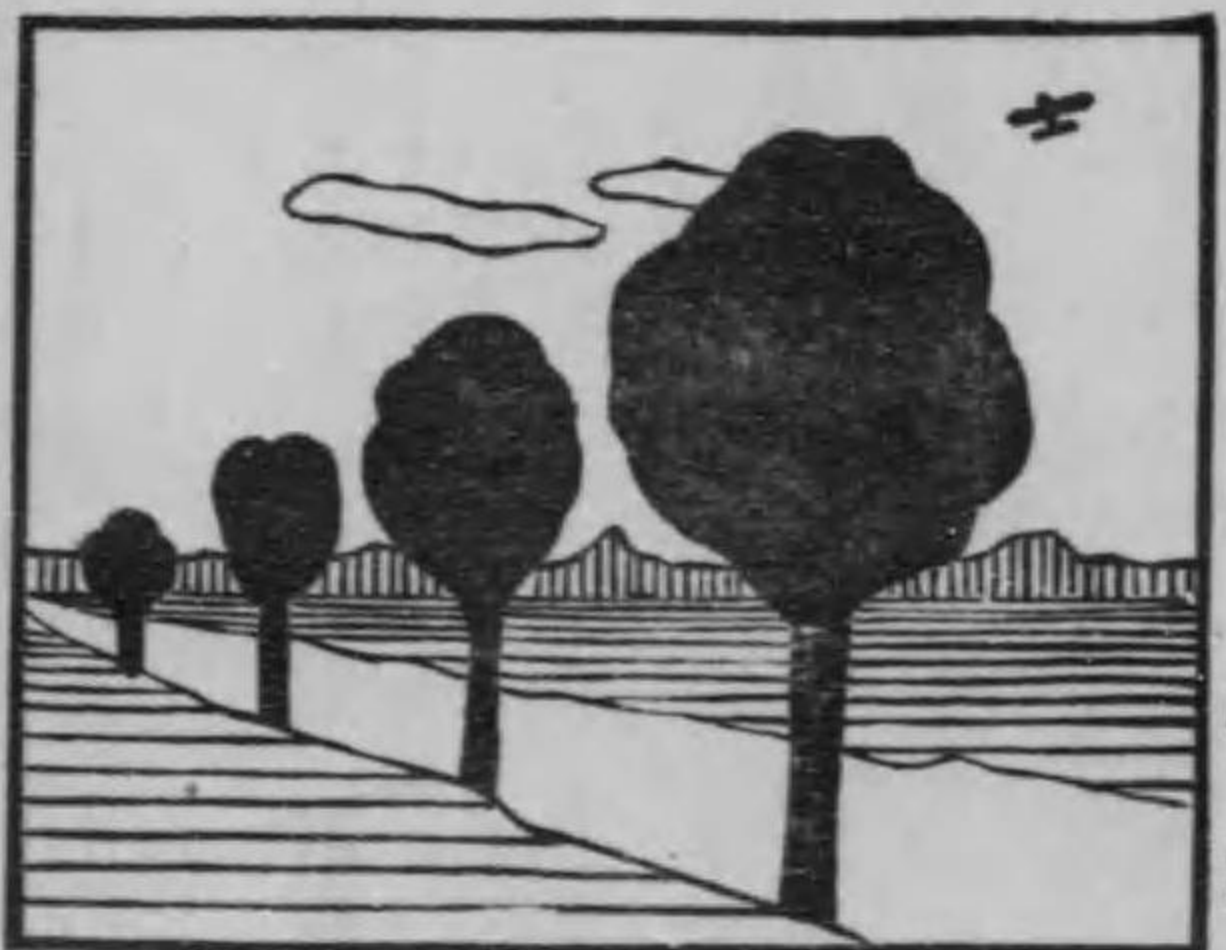
一、觀察、問答  
 1、大形の切抜標本を示して、天空、野原、樹木等の形状、色彩を觀察せしめ、以て切り抜き方を會得せしむ  
 2、簡單に遠近の理を説き、近くにある樹木は大きく遠くにあるものは小さく表はす所以を知らしむ  
 二、作り方  
 1、先づ青色紙をとり適當の大きさに空を切り抜き取り、次に黄色紙を適當の大きさに切り、野原を切り取り、紺色紙の裏面に大小の樹木を描き、之を丁寧に切り抜き、切り抜きたる各片を、臺紙上に位置よく並びしむ  
 4、空、野原、樹木の順序に丁寧に貼付せしむ  
 5、兒童各自の望みにより道、家、等を別に切り抜きて配置せしむ

上教授注意

一、風景の切抜きには特に色の調和を注意すべし  
 二、空地、地面、木の面積割合、樹木の大小配置に注意すべし  
 三、色紙の大き、及空の野原の重れ目に注意すべし  
 四、道及家等は各自の任意とすべし  
 五、切抜き際は色紙袋に保存せしむべし

考 備	品 用 授 教			時 數	要 旨	題 目	種 目	週 次
	物便教	具 用	料 材					
	前學年兒童の成績品 參考の標本又は繪畫	唐鈔、尺度、色鉛筆	種々の色紙片、臺紙、糊、糊下紙	二 時	前課の形式を應用して、各自任意の景色を切抜かしめて、意匠の修練をなさしむ	創作(景色)(創作法)	紙細工(切抜)	第九、一〇週

教授事項 圖解



一、觀察、問答  
 1、參考の標本又は、繪畫を示して、景色の遠近、配色等につき問答す  
 2、天空、野原、樹木等の切り抜き方につき問答す  
 3、景色の貼り方順序につき問答す  
 二、作り方  
 1、標本又は繪畫を參考しつつ、各自任意の風景を臺紙上に描き下圖を作らしむ  
 2、前課の形式を應用して、適當なる色紙を用ひ、各部分の任意に切り取りしむ  
 3、臺紙上に位置よく並びしむ  
 4、順序よく貼付せしむ  
 5、兒童の好みに任せて飛行機、人物、家、等任意に切り抜き貼せしむ

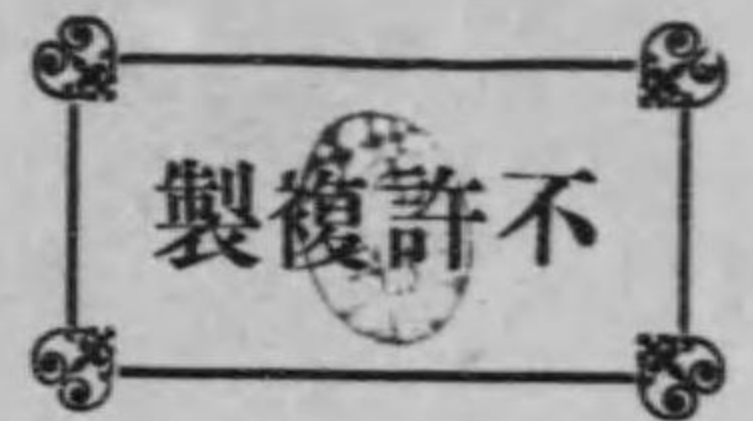
上教授注意

一、教師の適當なる指導により各自の工夫を助け、以て思想を充分發表せしむべし  
 二、貼り方順序に注意すべし  
 三、色の調和を保つ様に注意すべし  
 四、便宜色鉛筆を併用せしむるも可なり  
 五、新工夫に苦しむものには前課の形式を復習し、又は一部の改作をなさしむるも可なり  
 六、第一時に大體を切り抜き、第二時に仕上げしむ  
 七、色紙袋を利用せしむべし



263.3  
140

大正七年五月十一日印刷  
大正七年五月十五日發行



定價  
一・二・三・四學年用各拾貳錢  
五・六學年用各拾錢

編纂者 橫井曹一  
名古屋西區五平藏町三ノ二番地

發行者 野田助左衛門  
名古屋西區澤井町五十三番地

印刷者 小池清  
名古屋東區針屋町三十一番戶

益社  
電話一三二三番

發行所 野田出張店  
名古屋西區伏見町一丁目四番地



終

